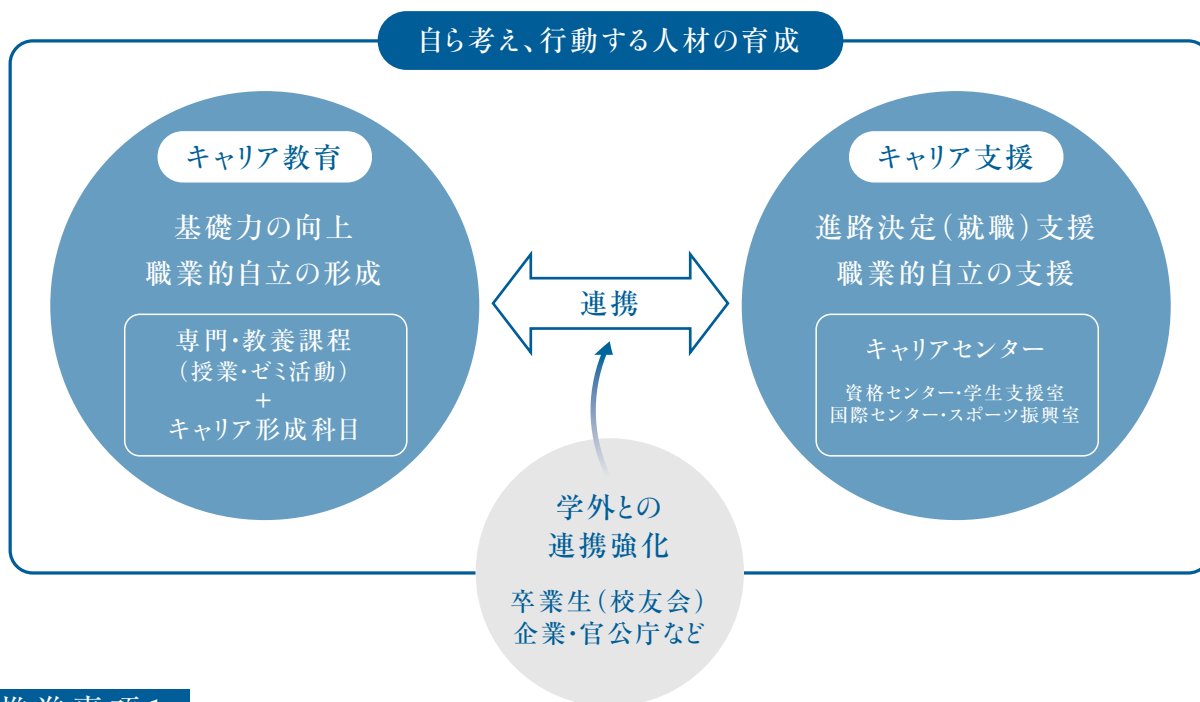


VI キャリア教育・支援

「キャリア教育・支援」の基本方針

雇用情勢が不透明な中、学生の進路決定において大学の果たすべき役割は、以前にも増して大きくなりつつある。

こうした中、本学のキャリア教育・支援においては、学部・学科の教育課程を通じて行われるキャリア教育と、学生の就職をサポートするキャリア支援を車の両輪として、両者が有機的な連携を図りながら、自ら考え、行動する人材を育成し、社会に送り出していく組織・体制づくりをめざす。



推進事項1

キャリア教育に対する全学的取り組みの強化

本学においては、学生の職業的自立を図るためのキャリア形成科目を早期に導入するなど、積極的なキャリア教育への取り組みを行ってきた。ただし、キャリア形成科目は全学部学科で導入されているわけではなく、また本来のキャリア教育についての教職員の理解という点でも課題が残っている。各学部学科の専門的知識に加えて、問題発見解決能力・ディスカッション能力など、社会に出てどのような職業に就いても求められる能力を、ゼミをはじめとした授業の中で育成することの重要性がより大きくなっている。

そこで、キャリア形成科目だけに留まらないキャリア教育を全学的に取り組む必要がある。

施策

- ①全学的な「議論の場」の設置、学内関係部門の有機的連携の強化などキャリア教育とキャリア支援との連携を踏まえた全学的体制の構築
- ②ゼミ活動のさらなる充実・活性化など学部教育を通じた社会人として必要とされる能力の育成・強化
- ③各学部学科カリキュラムに応じたキャリア形成科目導入に向けた積極的な検討
- ④学部教育とキャリア形成科目との有機的連携に基づく各学部学科独自のカリキュラムの構築

推進事項2

キャリア支援における学内外の連携体制の強化

本学では、キャリアセンター・資格センターを中心とした手厚いキャリア支援により、民間企業、公務員ともに就職実績では大きな成果を上げてきた。しかし、キャリアセンターと資格センターとの連携や、キャリアセンターと国際センター・学生支援室などの正課外活動を担当する学内関係部門との連携においては、なお改善の余地がある。また、卒業生や企業など外部機関との連携も十分とは言えない。

今後、学内外の連携をさらに強化することにより、学生のポテンシャルを最大限に活かすことができるよう支援していく必要がある。

施策

- ①キャリアセンター・資格センターなどの連携によるシームレスなキャリア支援体制の強化
- ②留学、クラブ活動、ボランティアなどの正課外活動をキャリア形成に活かすための学内関係部門間の連携強化
- ③各教員に対するキャリア支援内容の情報提供の強化および理解促進
- ④教育後援会との連携強化など保護者に対するキャリア支援の内容のさらなる理解促進
- ⑤企業などの外部機関および卒業生による、在学生のためのキャリア支援への協力促進と、体制整備による関係強化

推進事項3

入学から卒業に至るまで学生のステージに応じたキャリア支援の促進

本学のキャリア支援は、これまで最も効果が期待できる3年次から4年次春にかけて集中的に行うことにより、大きな成果を上げてきた。その一方で、将来を展望して大学生活の過ごし方を考えるべき低学年でのキャリア支援や、3年生を中心とした少人数による就職活動支援、さらには4年生の後半になっても就職が決まらない学生へのフォローという点では不十分な点もあった。

今後、学生支援に関するデータベースを活用し、入学から卒業に至るまで、学生のステージに応じ、きめ細かいキャリア支援を実施していく必要がある。

施策

- ①1・2年生を対象とした、自らの進路を意識した大学生活を過ごすためのキャリア支援の強化
- ②3年生・修士1年生を対象とした、少人数および個別対応を中心としたきめ細やかな就職活動支援のさらなる強化
- ③4年生・修士2年生の秋以降における就職未決定者支援体制の強化
- ④入学から卒業まで学生のステージに応じたWEBメディアを中心とした情報発信の強化

キャリア教育の目的とは

①基礎力の向上

授業・ゼミ活動 → 社会に出てどんな職業に就くにしても、必ず求められる能力(基礎力)の育成。
*

②職業的自立の形成

キャリア形成科目 → 社会に出るにあたっての心の準備形成。働く事への積極的理解と覚悟。自分なりの仕事観の形成。自分の人生を切り開いていくことへの、自己効力感の形成。

*基礎力とは…社会性や問題発見解決能力、コミュニケーション能力などのことを指す。文部科学省では学士力。経済産業省では社会人基礎力と提起している。